

夏から冬にかけて、楽しいイベントや勉強会が続きました。  
皆さんも、県や地域の育成会活動に参加してみませんか！



9月 事業所部会 職員研修会

# 手をつなぐ とやま

第169号

富山県手をつなぐ育成会  
富山市安住町5-21  
富山県総合福祉会館内  
TEL 076-441-7161  
FAX 076-441-7255  
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp  
HP http://toyamaikusei.jp/

発行責任者  
平野 幹夫

みなさんの会報です  
よく読みましょう

ひとりひとりが  
考える  
実践活動



はじまりました！  
学齢期支援プロジェクト  
モコモコサークルのイベント



はじまりました！  
「親亡き後」勉強会  
(支部長・相談員合同研修会  
での実施の様子)



県外の本人との勉強会・交流会

# 新年のごあいさつ



理事長 四方正治



— あなたです！ 差別するのでも されるのでも —

皆様方には、新しい年を心新たに気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から、育成会活動に力強いご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年9月に三重県で開催された東海北陸手をつなぐ育成会大会は、第51回の節目の大会として、「ともに育ち ともに暮らし 自分らしく生きる」ことを切に願い、参加者全員が、地域からの共生社会づくりを進めていく決意を新たにす機会となりました。

障害者総合支援法の見直しについては、就労定着や高齢障害者支援の拡充などの新サービスが、昨年4月から施行されております。

とりわけ、高齢障害者が障害福祉と介護保険の両方のサービスを

同一事業所で受けられ、環境の変化を少なくできる「共生型サービス」について、注視していく必要があります。

一方、障害者の権利擁護については、国連の障害者権利条約の批准をはじめ、国内での法的整備が進んできております。

しかしながら、法律や条例ができたからといっても、差別や偏見がすぐ無くなるものではありません。虐待事件も後を絶ちません。

障害者雇用の水増し問題についても、障害者が働けるような機会の創出や環境づくりに、行政機関が真摯に向き合っていない結果と考えられます。

障害のある人もない人も、一人一人がかけがえのない存在という価値観が、まだまだ浸透していな

い気がします。

一方では、オリンピック・パラリンピックに向け、政府は、心のバリアフリーの取り組みや環境整備に本腰を入れて取り組みをすすめています。

育成会としては、この好機を十分に活かし、障害のある人もない人も互いに納得できるような合理的配慮の提供や生活環境の整備がなされるよう、会員それぞれの地域で、差別解消支援地域協議会なども活用しながら、しっかりと働きかけていく必要があります。

県育成会活動の1年を振り返りますと、一つは、念願でありました「権利擁護推進委員会」を昨年立ち上げることができ、まず出来ることから始めようとの思いから、親の不安に寄り添う「学齢期支援プロジェクト」をスタートさせました。

小・中学校の特別支援学級の先生や保護者への理解啓発を進めるため、親子で楽しもうイベントを通して、親同士や先輩会員との交流のきっかけとなるよう、企画しております。

二つ目には、富山県育成会が今年度、富山市から委託された「親

亡き後問題調査研究事業」を契機に、県内各エリアでも同様に勉強会の取り組みを行いました。

どうか会員の皆様には、ともに手をつなぐという育成会の原点を忘れることなく、他の障害者団体とも連携協力しながら、「親亡き後も安心して暮らせる地域づくり」に、地道に取り組んでいただきたいと思えます。

「あんしんサポートノート」づくりについても、引き続き、当会としての最重要事業と考え、保護者会やグループでの書き方学習会なども活用しながら、ライフステージに応じたプランづくりを進められ、本人や家族への支援、そして会員拡大につなげていただくよう願っています。

今年度は、4月末に天皇陛下がご退位なされ、5月1日から新天皇が即位なされる記念すべき年となります。この1年が安寧な年になりますよう祈念申し上げます。

結びに、関係各位の変わらぬご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

**【権利擁護推進委員会 ①】**

**親亡き後準備+対策プロジェクト**

**始まりました！ 事前勉強会**

・支部長・知的障害者相談員合同研修会  
・富山県育成会×各地域エリア育成会

漠然とした不安はあるけれど、具体的に何からどのように対応すればいいのか分からない。

将来のことは、何となくまだ考えたくない。いざとなれば、誰かが何とかしてくれるはず。

「親亡き後」に不安を抱いているけれど、その対策は先送りにしている、というのが現状ではないでしょうか。

私たちの大きな課題である「親亡き後」について、権利擁護推進委員会では、「親亡き後準備と対策プロジェクト」を開始しました。

親の高齢化と障害者本人の加齢は待ったなしの状態。

そんな中、今年度、富山県育成会は富山市より「親亡き後相談支

援研究事業」を委託されました。

この「親亡き後」問題は、私たちの共通テーマであることから、富山県育成会と連携し、権利擁護推進委員会の事業として各エリアで取り組むこととしました。

まず、残暑厳しい8月30日、各エリアでリーダーとなる支部長、知的障害者相談員による合同研修会を開催し、この事業の概要や勉強会の進め方を学び合いました。

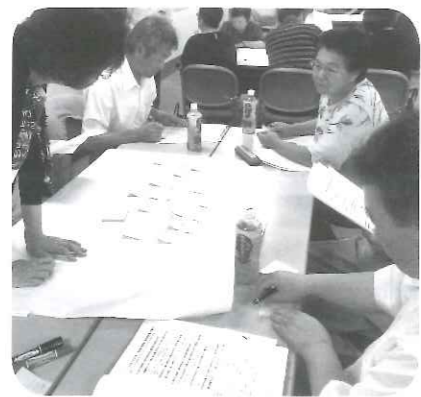
そして、秋からは県内4エリアで、地域生活をしている40代の子どもの保護者を対象に、少人数での勉強会を開始しました。

勉強会は2回シリーズ。

1回目は「親亡き後」を考える

— 守る 人権

— 明るい未来 —



富山市の勉強会には、精神と重症心身の障害者団体にも勉強会に加わっていただきました。

周知不足で、思ったように参加

前に、事前に親たちが社会の現状や今後の施策を知っておくこと、その上で仲間の体験談を聞き、仲間同士で話し合うことにより、漠然とした不安や悩みを明確化するというものです。

2回目は、1回目の勉強会で出された不安材料を踏まえ、高齢化が引き起こす問題の実態を、生活場面毎に整理することで、足りない社会資源や、親、行政、地域等、それぞれが準備すべきこと、できることを明確にするといった内容となりました。

者が集まらないエリアもありましたが、1回目の勉強会が評判となり、2回目には参加者が増え、更にはグループホーム見学会に至ったエリアや、勉強会に参加し、親自身がやるべきことが明確になり、成年後見制度の申立て準備を始めた方がいらっしやるなど、上々の滑り出しとなりました。

また、勉強会では、参加者へのアンケートや、本人へのヒアリングも行われましたが、どのエリアでも共通して、本人の危機感のなさ、親自身の意識改革が必要であることが見えてきました。

来年度以降も、この事業が契機となり、親子共々、今後の幸せと安心できる地域生活が展望、親自身が準備できることや、必要な支援体制を考え、それぞれの行動につなげていくために、この勉強会を続けていきます。

今年度の総決算は3月16日、広く関係者が集うセミナーの開催となります。ひとりひとりが「親亡き後」を真剣に考えていくために、多数のご参加をお待ちしております。



8月3日(土)・4日(日) 県外の本人との交流と勉強会

さいたまの本人活動で活躍中の横山正明さんから、「本人活動のマニュアル本づくり」のため、富山のみんなにインタビューしたいという依頼があり、協力することになりました。

38℃と今夏の最高気温となった中、前日の午前には岩瀬浜での観光案内、夜は居酒屋での交流会を開催。得意のお国自慢トークで盛り上がりました。

翌日は神奈川県の奈良崎真弓さんも加わり、一人一人へのインタビュー。質問カードを見ながら、それぞれ真剣に答えていました。

全国でも活躍する二人の進行や話は、とても勉強になり大いに刺激を受けました。「いつかまた県外の本人との交流会をしたい!」との声もあがり、今後の活動の楽しみとなりそうです。

本人活動部会 県外の本人との交流会・勉強会(8月) 防災についての体験学習会(9月)

9月2日(日) 富山県四季防災館 体験学習会

平成30年度は、北海道や大阪での地震、中国地方での豪雨災害、度重なった大型台風など、大きな自然災害に見舞われました。

本人活動部会に参加者が集まってくると、災害について話題となり、関心が高まっていましたが、就労者が多いため、学校在学者や施設利用者に比べ、日常生活の中での防災体験の機会は多くありません。

そこで「四季防災館」を訪ね、体験学習会を開きました。

「地震体験」では、徐々に強くなる震度や、縦横の揺れに、思わずしゃがみ込む人も。

「消化体験」では、消火器を使ってスクリーン上の燃え盛る炎に狙いを定めませんが、なかなか火は消えず、想像より難しく感じたようでした。

会議室に移動し、「もし防災にあったら」をテーマに、県広域消防防災センター長さん等と、被災した場合の初期行動や、家族でもしもの時に備えて避難場所を日頃から確認しておくことなどを話し合い、参加者それぞれの防災意識が一段と高まる機会となりました。



【権利擁護推進委員会 ②】

学齢期支援プロジェクト 始まりました!「モコモコサークル」 親子で楽しもうイベント



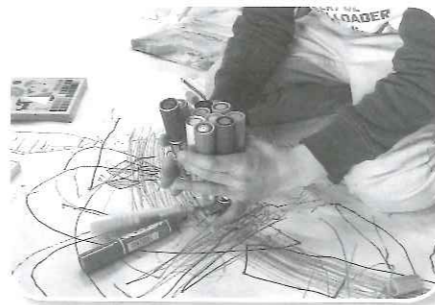
若い保護者の不安を受け止める、悩みや不安に同じ仲間として寄り添うという、育成会の原点である活動を目的に、学齢期支援プロジェクトがスタートしました。

当初は、支援学級に会員が出向くピアカン活動を目指していましたが、意見交換していく中、学齢期の委員から、「親子で楽しむイベントを通して、同じ仲間として子育ての不安や悩みに寄り添っていきたい」という企画が提案され、まずはこの方向で進めていくことになりました。

12月1日(日) 僕も私もアートデザイナー インテリアクロックをつくってみよう!



リーフレットのイラストにある羊から「モコモコサークル」と名付け、いよいよ活動が始まりました。



①11月26日(日) ②1月27日(日) アートチャレンジ!らくがき大会

今後、各エリアでのイベント開催を目指しておりますので、お時間のある方は、ご支援ご協力(…お手伝い)の程、よろしくお願いたします! みんなで、盛り上げていきましょう。

イベントには支援学級や支援学校に通うお子さんが、ご家族と一緒に多数参加いただき、保護者同士でもお話しされるなど、楽しい時間を過ごしました。



平成30年9月2日(土) サンシップとやま 福祉ホール  
**第14回地域事業所部会 職員研修会**  
**講師 高木 誠一 氏**  
全国手をつなぐ育成会連合会 政策センター委員長  
 (社福) ひかりの園理事 浜松協働学会企画相談室長

この研修会は、日々の支援における悩みや問題を寄せ合い、相互に情報・意見交換を行いながら、学び合うもので、毎年開催しています。今回は、児童、障害者施設、作業所、グループホーム、相談支援事業所等、多様な障害福祉現場での経験豊富な、高木誠一さんを講師にお迎えしました。

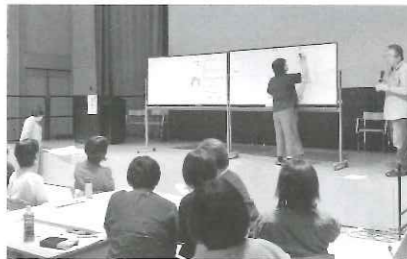
午前は、今回の担当事業所、(社福)手をつなぐとなみ野さんから、法人内での研修会の充実と、職員によるサークル活動が紹介され、県内第1号となった障害への理解啓発を伝えるキャラバン隊「ぼすてる」の寸劇が披露されました。次に、高木さんによる講演では、知的な障害のある人の問題行動は

どう生まれるのか、また、自閉症の特性から、どのように本人に寄り添った支援ができるのかお話しされました。

現場経験をもとに、職員の悩みや葛藤にも共感、理解を示され、チームでの支援と、本人をとことん知り、認めることの大切なことを訴えられ、利用者それぞれの物語を共に描いていきましょうと結ばれました。

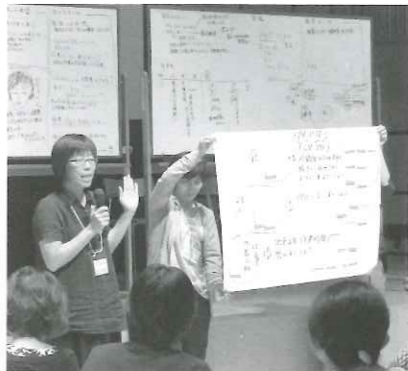
午後からは、「問題を課題に変える」をテーマに、午前中の講義内容を踏まえ、問題行動のあるA子さんの事例を、グループワークで取り組みました。始めに、高木さんから担当職員に、A子さんの生い立ち、成育歴、

あなたの その運動  
 家族関係、現在の暮らし、性格、苦手なこと、得意なこと、好きなもの、嫌いなもの、病気、趣味、気になること、コミュニケーション等、たくさんの質問がなされ、ホワイトボードに把握していることを担当者がまとめます。



A子さんの人物像が見えてくると、高木さんは、「こんなに良いところがいっぱいある、とってもいい子。全然、問題のある人じゃないよ」と、笑顔で一言。その視点の違いに、日々、困った、困ったと思っていた職員たちは、大きなショックを受けたようです。とことん、その人を知った後は、グループで、その人のストロングポイント、良いところ、得意なこ

と、できることに着目します。どのように問題行動を改善していくか、アイデアを話し合い、最後に各グループから、まとめを発表していただきました。



問題行動にどのように対応するのか、支援していくのか。始めは難しい表情の職員の皆さん方でしたが、「〇〇ができない人」ではなく、苦手な人、うまくない人と視点を換え、本人の強みや好きな事で、問題行動に向き合う、改善していくという前向きな方法に、笑顔での話し合いになりました。終了後、事業所でのケース会議もこの方法で話し合ってみたいという声が出て、充実した研修の機会となりました。

はじまりました！ワークショップ

**少人数で、日常生活での「悩みや、困りごと」を話し合みましょう**

講師・アドバイザー **前田 宣子 先生**  
 日本自閉症スペクトラム学会 理事 / 特別支援相談員 スーパーバイザー

「こだわりが強い、パニック発作、攻撃的、感覚過敏、コミュニケーションが取りにくい」日常生活の中での様々な悩みごとや困りごとを、お一人で抱え込んではいませんか？

県育成会では、長らく特別支援学校で障害のあるお子さんたちに寄りそってこられた、前田宣子先生をアドバイザーとして、ワークショップをはじめました。

8月26日(日) サンシップ

ワークショップを本格的に展開する前に、前田先生のお話と、このワークショップを企画していただいた宮田真知子さん(富山市)による、子育て経験談を伺う機会を設けました。

最初に、宮田さんから、「こだわりとの闘い編」と「息子の成長編」に分け、自閉症と重度の知的障害のある息子さんの成長記録をお話していただきました。

前半では、小学生の時に突如はじまった、他人の咳やくしゃみを発端としたパニックについて、毎日いつ約変するのかと神経をすり減らしながらも、家庭と学校が一

致協力し、思い浮かぶあらゆる工夫をしながら、こだわりと闘ってきた日々について、また、高等部進学後に前田先生と出会い、自閉症とは何か、どのように導き、育てていくのか、根本から学んだ経験を語っていただきました。後半では、咳パニックはあったものの、大変な努力家で根気強い息子さんの特性を生かし、家事手伝いや、「14歳の挑戦」、就労体験、また、卒業後の就業や、移動支援を利用した充実した余暇活動等を紹介されました。

最後に、息子さんが力を発揮できるもの、気持ち安定し楽しめることを見つけ出した経験から、もし眠ったままの潜在能力があるのなら、もっと引き出してやりたい、可能性を信じて様々なことに挑戦したいという、前向きな言葉で締めくくられました。

次に、前田先生より、「良かれと思っで行う支援の落とし穴」をテーマに、日常生活での接し方や、対処の仕方、どのようにすれば成長を促せるのか等について、事例を用いながら、わかりやすくお話ししていただきました。

最後に、「相談できる仲間や、アドバイスもらえる方は近くにおられますか？」との問いかけがありました。こだわりは障害特性の一つであり、不安や悩みは一生続くため、同年代はもちろんですが、先輩保護者との交流を通して、情報交換やアドバイスをすることも大きな支えになると助言されました。

12月1日(日) サンシップ

「自傷・他傷行為の改善」をテーマに、成人と学齢期を、午前と午後に分けて、第1回目のワークショップを開催しました。

予定を上回る参加者数のため、お話ししていただく時間が短くなりましたが、参加者の発言にうなずき、同じ悩みを共有し、前田先生からの具体的なアドバイスを受け止めていただきました。

2回目のワークショップも、同じテーマで2月末に開催予定です。今後も継続して開催する予定です。ご関心のある方は、お問い合わせください。

**平成31年度 富山県予算に対する要望書**  
 平成30年10月30日に提出しました

**1 権利擁護の推進**

- (1) 地域共生社会づくりを進めるため、障害者差別解消法や県条例の普及・啓発、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の推進など、地域住民や企業、各種団体等への知的障害者理解啓発の一層の推進
- (2) 地域における知的障害者理解の浸透を図るため、ヘルプマークとヘルプカードの普及・啓発
- (3) 本人の高齢化や 親亡き後を見据えて、市町村における成年後見人の育成と成年後見センターの整備促進など、成年後見制度の普及・啓発
- (4) 「障害者虐待防止法」を周知徹底するための研修と、養護者についてはむしろ支援の対象であるなど、法律の趣旨を尊重した支援体制の推進

**2 障害児支援の充実強化**

- (1) 障害のある人とその家族が孤立しないよう、子育て支援や家族支援施策の一層の充実強化と、早期療育を充実するために、児童発達支援センターにおける専門医師の確保など所要額の確保
- (2) 家族にとって身近なところで緊急時の支援が得られる、ショートステイの確保や日中一時支援等の充実

**3 特別支援教育の充実**

- (1) すべての子どもたちへの「心のバリアフリー」の学習を充実するなど、幼少期からの福祉教育の推進
- (2) 教職員に対する知的障害特性や合理的配慮についての理解啓発研修の充実など、特別支援教育の充実強化

**4 地域生活支援の推進**

- (1) 障害のある人に寄り添いながら、現在の困りごとや将来希望する暮らし方などの「ライフプラン」を一緒に考える相談支援の充実
- (2) 重度対応が可能なショートステイの確保と、支援員に対する障害特性に関する理解啓発研修の充実や適切な支援
- (3) 障害者の高齢化や重度化、認知症の発症に対応できるよう、障害福祉制度と介護保険・医療との連携や共生型サービスの推進
- (4) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の設置に伴う地域住民に対する理解啓発策の構築、及び整備費所要額の確保
- (5) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報

**5 防災対策・安心安全対策の推進**

- (1) 知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施
- (2) 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保
- (3) 障害者が避難できる施設の場所を、あらかじめひとり一人の障害者に紹介する仕組みの構築（サービス等利用計画での対応や障害者に配慮した情報提供等）など、災害時支援の具体化の推進
- (4) 災害時に特別支援学校の児童生徒が帰宅困難になった場合、特別支援学校に待機する期間分の学校備蓄品のための予算の確保
- (5) 特別支援学校の防犯対策として、正面玄関施錠のオートロック化への改善

- (3) 特別支援学校における教室不足の解消や特別教室へのエアコン設置など、特別支援教育環境の改善推進
- (6) 市町村における「地域生活支援拠点等事業」の普及・啓発と基盤整備の推進

**6 就労支援の推進**

- (1) 障害者優先調達法による発注拡大に努めるとともに、「富山県工賃向上支援計画」を検証し、障害者が地域で自立した生活が送れるよう、所得保障の拡充
- (2) 知的障害者に配慮した就労促進と雇用の拡大・定着を図

- られるよう、雇用現場での障害特性の理解啓発研修や合理的配慮の周知・徹底
- (3) 障害者雇用促進法を遵守した障害者雇用を推進するため、県と市町村における障害者雇用率のいわゆる「水増し問題」の実態把握と、再発防止への早急な改善

平成30年10月30日に、富山県厚生部、教育委員会（県立学校課ほか）、商工労働部（労働雇用課）に対して、県育成会から7名の理事等により要望活動を行いました。

要望後にそれぞれ懇談する時間を設けていただき、日頃の思いや懸念事項を話し合うことができました。

**★障害者雇用問題について（経営管理部、厚生部、教育委員会）**

国ガイドライン等の理解不足から、障害者雇用の不適切な取扱いが起きた。個人情報に留意しながら法定雇用率の達成に努め、どのような仕事のやり方、仕事の内容ができるのか、という視点からも努力していきたい。

**★防災対策・安心安全対策について（厚生部）**

災害時等に障害者にどのように接すればよいのか、などの対応については、総合防災訓練の中で、当事者団体の方々に参加していただき、実際に取り組んでいきたい。

**★地域生活支援拠点について（厚生部）**

全国的に未だ整備が少ないものの、先進地事例を示しながら、市町村を含めて議論していきたい。



**平成31年度（2019年）富山県手をつなぐ育成会 主要行事**

平成31年2月現在

開催日（予定）	事業名	場所
平成31年（2019年） 4月28日（日）	平成31年度 理事・監事・支部長会議	呉羽ハイツ
6月23日（日）	第47回富山県手をつなぐ育成会大会 （射水エリア大会）	高周波文化ホール（射水市新湊）
※9月6日（金）に変更 9月27日（金） 9月20日（金） 9月26日（木）	平成31年度 ふれあい育成スポーツ大会	にいかわ地区…ありそドーム 富山地区…富山県総合体育センター 射水・高岡・氷見地区…竹平記念体育館 となみ地区…富山県西部体育センター
9月14日（土） ～15日（日）	第52回東海北陸手をつなぐ育成会大会 （石川大会）	石川県金沢市 （石川県地場産業振興センター）
11月23日（土） ～24日（日）予定	第6回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会	熊本県熊本市（熊本城ホール）
10月12日（土）～14日（月）	第19回全国障害者スポーツ大会	茨城県
未定	全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会全国研修大会	未定

※にいかわ地区の「ふれあい育成スポーツ大会」の日程が変更になりました。（H31年1月変更済）

**表彰おめでとうございます**  
富山県知事表彰  
理事 細川 瑞子さん

富山県育成会理事をはじめ、障害者の権利擁護と成年後見制度の研究者、そして、旧全日本育成会の相談室長として、長らくご尽力してこられた細川瑞子さんが、富山県知事表彰（厚生功労部門）を受章されました。



記念式典では、受賞者を代表して謝辞を述べられましたが、社会福祉に取り組みられた契機や、障害のある子ども子育て、育成会活動への参加など、地域福祉にかけぬる思いに、参加者一同大きな感銘

を受けましたので、細川さんのご承諾のもと、ここに掲載させていただきます。

**謝辞**

本日、富山県知事表彰、富山県社会福祉協議会長表彰、富山県共同募金会長表彰を受けました個人・団体を代表して、お礼の言葉を申し上げます。

この度、栄えある表彰を受けたことは、私ども一同、身に余る光栄であり、心より喜んでおります。このような栄誉に浴することができたのは、ひとえに皆様方のご指導・ご鞭撻のおかげであり、多くの方々のご協力のたまものと感謝しております。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

さて、私が社会福祉に目を啓かされたのは、実は私事です。子どもが臍の緒を首に巻いて生まれ、五分間、仮死状態が続いたため、最重度の知的障害を持ちました。何とか発達を促したいと医療や訓練にのめり込めば込むほど、子ども

なくそう差別 守ろう人権

もは拒否し、問題行動が増えて行きました。その挙句に、私が病いに倒れました。このままでは家族が共倒れになる、との悲痛な思いで児童相談所を訪ね、砺波学園に救われました。その時、私はハツと気づいたのです。

こんな重い障害を一生持つて生きていく子どもを、社会に残して行かなければならないことに。私は、この子を残していく社会を、障害があっても住みやすい社会にしたい、そのために何ができるのか、自問しました。

そして知的障害者の親の会、育成会を知りました。それは、平成3年秋のことでした。創立40周年の育成会全国大会が東京で、天皇皇后両陛下をお迎えして行われ、記念講演で、知的障害の子どもさんを持つておられ、後にノーベル文学賞を受賞された大江健三郎さんが、「障害の子をどうぞロジ口見て下さい。見て、理解して下さい。」と言われたのです。

私は、その足で、富山県育成会

へボランティアに行きはじめました。そして、富山県から委託された「障害者一〇番」事業の専門相談員を担当することになり、その活動も20年を越えました。

この間、子どもを通じて福祉のありがたさを知り、育成会を通じて障害者福祉の活動に取組み、富山県社会福祉審議会の委員も務めさせて頂く中で、次第に、福祉を担うには、広い視野を養うことが大事であると気付いた私は、社会福祉士の資格を取り、大学院で成年後見制度の研究に携わり、さまざまな分野の方々と社会福祉を語る機会を持ち、その世界の広大さを知り、福祉の理念の根底にある人間の尊厳についても思いを致すようになりました。

ちなみに、子どもは36歳になり、相変わらず言葉はなく、さまざまなトラブルを起こしています。が、セーナー苑で温かく見守って頂き、ありがたく思っております。週末毎に迎えに行き、時には旅行に連れ出し、笑顔に励まされて、

**第51回手をつなぐ育成会 東海北陸大会（三重大会）**

平成30年10月27日(土)、28日(日)、豊かな自然に恵まれた三重県志摩市を会場に、第51回手をつなぐ育成会東海北陸大会が開催され、富山県からは33名が参加しました。

**表彰おめでとうございます**

林 和男氏  
(社福) セーナー苑  
地域生活サービス部長



30年4月は、障害者総合支援法の3年後の見直しによる改正と、報酬改定が重なり、障害のある人の地域生活を支援する新しいサービスがスタートし、「地域共生社会」を推し進めるものとなっています。

今大会のスローガン「ともにそだち」ともに、自分らしく生きる」は、これから障害福祉が目指す方向性をわかりやすく示したものです。

このスローガンのもと、本人の2つの分科会、育成会大会では4つの分科会と特別講座が行われました。

「本人の権利」の分科会では、南砺市育成会の西部穂さんが、「生きづらさへのかかわり」という難しいテーマを担当し、障害のある人の「生きづらさ」を具体的な事例で取り上げ、保護者、支援者、地域の人、育成会、関係機関、行政など、それぞれの立場で、誰がどのようにかかわりを持つのか、支えるのかを提言されました。

毎回、高い関心が持たれる「高齢化」については、本人の高齢化と、親の高齢化に分けた分科会が設けられました。高齢化社会の現状を知ることや、親と子どもの年表をつくり、親なき後をイメージすること、高齢化した本人の暮らしの場とはどこなのか、お金がどれくらい必要なのか、どれくらい



次の東海北陸大会は、すぐお隣の、石川県金沢市で、9月14日・15日に開催されます。お誘い併せて、多数ご参加ください。

バスでの長い道のりでしたが、天候にも恵まれ、伊勢神宮にも足を延ばして参拝するなど、楽しい旅となりました。

ただ不安に思うだけではなく、自分で考えて行動に移すことが大切だと感じました。

遣せば安心なのかと、共通した話題が持ち上がり、活発な議論が行われました。

平成29年度賛助会員  
名簿の訂正とお詫び

前々回第167号で賛助金のご支援をいただいた方の一部記載ミスがありました。

訂正し、お詫び申し上げます。

黒部支部

松岡 洋 様 (特別賛助会員)

記事の訂正とお詫び

前回168号4ページの県大会で、上市町の塩井様より原稿をいただきましたが、誌面でのお名前に誤りがありました。

訂正しお詫び申し上げます。

正しくは、塩井 研三 様です。

お礼



富山県保育士会様より、今年もたくさんの方のタオルをいただきました。

作業所での自主制作製品に利用するなどして、大切に使用させていただきます。どうもありがとうございます。

ホームページリニューアル (予定)

新年度より、ホームページが新しくなります。  
研修会やイベントの予定など、わかりやすく情報発信していきます。  
スマートフォンでも閲覧しやすくなりますので、ご期待ください！

育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
<b>【報告】</b>		1/27(日)	モコモコサークル「チャレンジアート落書き大会」(富山市民芸術創造センター)
10/30(火)	県予算要望 (県庁)	1/30(水)	権利擁護推進委員会 (サンシップとやま)
11/8(木)	施設部会「保護者会 意見交換会」 (サンシップとやま)	2/7(木)	施設部会・地域事業所部会 (サンシップとやま)
11/11(日)	本人活動部会 (サンシップとやま)	2/9(土)	本人活動部会 (サンシップとやま)
11/13(火)	権利擁護推進委員会 (サンシップとやま)	2/14(木)	富山障害フォーラム会議 (聴覚センター)
11/18(日)	ふれあい共生フォーラム (イオンモール高岡)	2/16(日)	モコモコサークル「プログラミング体験」 (県総合情報センター)
11/22(木)	サポート協会 ブロック会議 (石川県)	2/20(水)	障害者虐待防止・権利擁護研修会 (県民会館)
11/25(日)	モコモコサークル「チャレンジアート落書き大会」(高岡市伏木ココベリ)	〃	県障害者雇用推進会議 (県民会館)
11/29(木)	施設部会「全体研修会及び施設長懇談会」 (新川むつみ園)	2/24(日)	困りごと悩みごと相談 (サンシップとやま)
12/1(土)	困りごと悩みごと相談 (サンシップとやま)	2/23・24 (土・日)	第5回全国育成会連合会 全国大会 (京都市)
12/2(日)	本人活動部会 (サンシップとやま)	<b>【予定】</b>	
12/3(月)	障害者週間キャンペーン (富山駅)	3/5(火)	全国知的障害児者生活サポート協会 理事会 (東京)
12/9(日)	モコモコサークル「インテリアクロック作り」(サンシップとやま)	3/7(木)	全国育成会連合会 フォーラム (東京)
12/18(火)	権利擁護推進委員会 (サンシップとやま)	3/8(金)	全国育成会連合会 代表者会議
12/19(水)	県障害者施策推進協議会 (県民会館)	〃	全国育成会連合会 行政説明会
1/9(水)	県小学校長会・中学校長会 (教育記念館)	3/16(土)	親亡き後の準備と支援を考えるセミナー (サンシップとやま)
1/12(土)	障害者成人式 (カナルパークホテル)	3/27(水)	育成会理事会 (サンシップとやま)
1/20(日)	本人活動部会 (サンシップとやま)	〃	サポート協会理事会 (サンシップとやま)
1/22(火)	育成会理事会 (とやま自遊館)		
1/24(木)	県特別支援教育研究協議会 (高志会館)		

守る 人権 明るい未来

# 「親から地域社会へのバトンタッチ」～準備と支援を考えるセミナー～

「今すぐ」、「今のうちから」、ひとりひとりが、考えましょう！  
お申込み締切り日を過ぎてのお問い合わせは、「富山市育成会」までお願いいたします。

障害のある人の「親亡き後」は、  
みんなの共通課題！



## 「親から地域社会へのバトンタッチ」

～ 親亡き後の準備と支援を考えるセミナー ～

日時 H31年3月16日(土) 12時30分～16時30分

(受付12時～)

会場 サンシップとやま 1階 福祉ホール

(富山市安住町5番21号/屋外大型P利用可能)

12:40～13:50

【親亡き後も安心できる地域づくり】

先進地 大分の取組

講師 平野 互 さん

大分県自閉症協会 会長  
大分県県立看護大学 准教授

13:50～14:20

始まりました、親の勉強会

【事前勉強会の報告】

報告 細川 瑞子さん

富山県育成会 権利擁護推進委員会委員長  
富山市育成会 副会長

あなたも地域での勉強会に参加しませんか？

14:30～16:30

地域のキーパーソンによる  
シンポジウム

- ・ 社会福祉協議会 ・ 地域包括支援センター
- ・ 民生委員児童委員協議会
- ・ 支援事業所 ・ 本人の声

【参加費無料】

障害や、生きにくさを抱える我が子を、  
「親亡き後」誰に託し、どうつなぐのか？  
親が準備できることや、残しておくもの、  
どのような支援体制が必要なのか、  
一緒に考え、行動につなげましょう！

主催/富山市、富山市育成会 共催/富山県育成会

お問合わせ・お申込み先 富山市育成会 ☎076-442-8539

(お申込み締切 H31年2月28日(木)まで 詳細は裏面をご覧ください)

やさしさが好きです あなたのその運転